

島根県中山間地域における地域づくりのなかでの生活交通の確保

島根県中山間地域研究センター中山間地域支援スタッフ
宮田 寛章・中曾 さゆり

浜田市井野地区における公共交通空白地有償運送の概要

実施主体	まちづくり推進委員会INO（井野地区交通運営委員会）
路線	①市街地（地区外）への運行：往路2便、復路3便（平日午前） ②地区内での運行：（1）市街地便と合わせて運行（平日午前） （2）地域行事の会場への運行（土日祝日）
運賃	地区外便：片道500円、地区内便：片道300円 （子ども料金は別設定）
利用者	井野地区住民、その親族、並びにその同伴者 （ただし、原則として自力で車の乗り降りが可能な方で、かつ予め利用者登録をした方）
運転者	有償スタッフ26名（男性17名、女性9名、30～70代）
車両	浜田市の無償貸与による軽自動車1台、普通自動車1台 （他に、予備車として住民提供の普通自動車2台）
予約受付配車事務	女性5名が有償スタッフとして、専用の携帯電話を用いて受付と配車事務をおこなう
利用方法	利用希望者は、利用日前日までに電話で予約をおこなう

仕組みづくりの過程

- ①暮らし全般に関する全住民アンケートの実施
- ②課題解決ワークショップの開催
- ③移動に関するアンケートの実施
- ④全自治会（集落）で意見交換
- ⑤対象者へ戸別訪問ヒアリングの実施
- ⑥「交通運営委員会」の立ち上げ
- ⑦試験運行の実施（全3回）
- ⑧本格運行の開始（平成30年4月～）

平成27年12月～平成30年3月

試験運行（社会実験）の効果

- ①：目標・目的、やるべきこと、出来ることが具体的になることで、話し合いや仲間づくりが進んだ
- ②：具体的な取り組みの成果を皆で共有することができ、やりがいや楽しみを感じながら仕組みづくりをおこなうことができた
- ③：地域のなかで取り組みの目的や仕組みに対する共感や理解が深まった

井野地区交通運営委員会における様々な学び合いの場



交通運営委員会定例会

役員、事務局、ドライバーを含む委員全員が一堂に会して、毎月1回定例会を開催。利用者が抱える問題や日々の運行上の課題を皆で共有し、話し合い、教え合い、学び合う



救急救命講習



安全運転講習（講話）



ドライブレコーダーによる運転技術の確認



ドライブレコーダーによる運行状況の確認



危機管理ワークショップ



車椅子講習

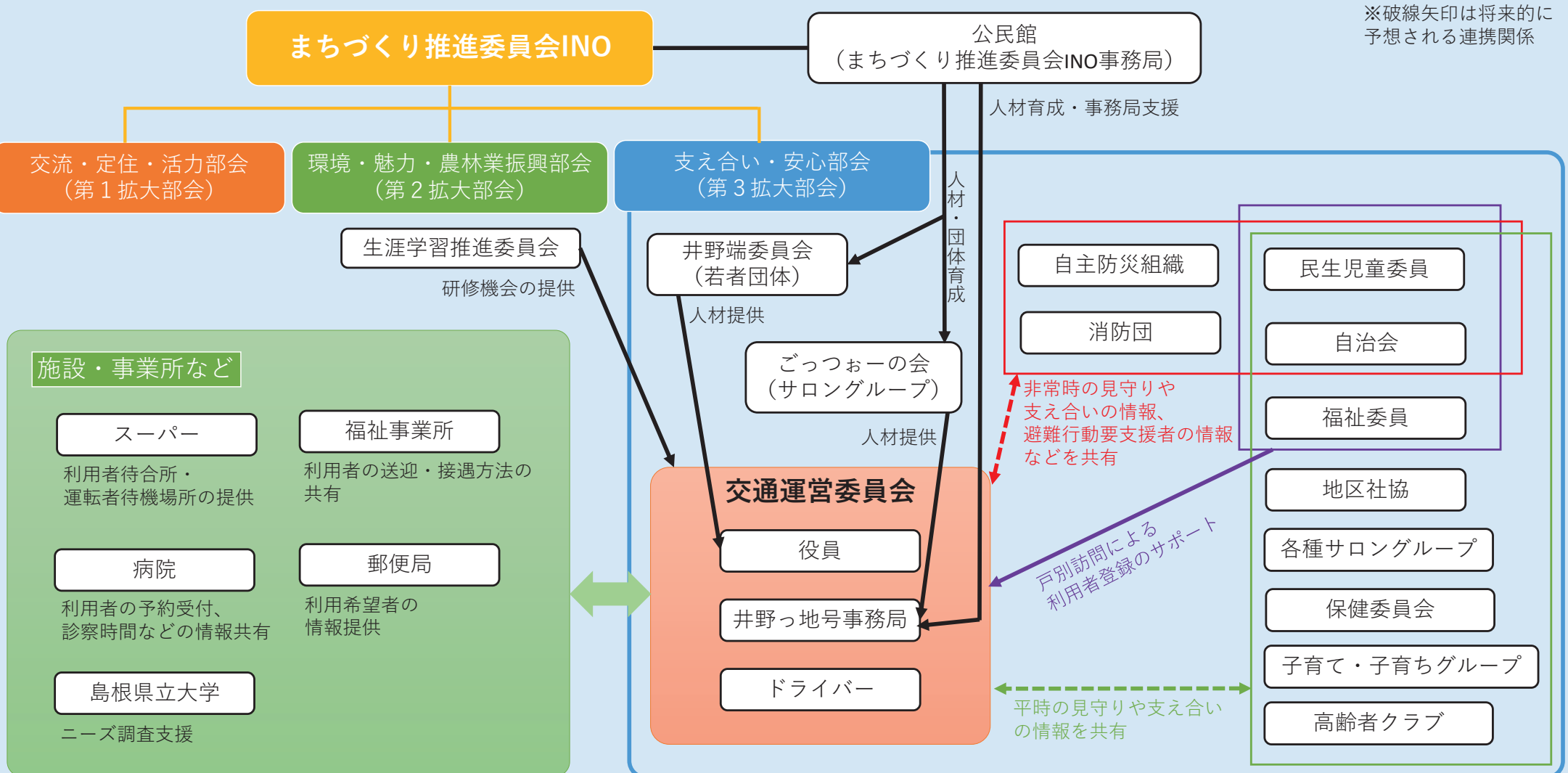
交通運営委員会の3つの機能

- ①学び合いを提供する場
- ②一人ひとりが自ら様々な役割を見出すことが可能な、参加・参画の機会を提供する場
- ③仕組みを維持・発展させる場



「実践コミュニティ」
（レイブ・ウェンガー 1993）

生活交通の確保をめぐる学び合いと参加・参画の輪の広がり ～支え合いの地域づくりへの展開～



まとめ

- ①：生活交通の確保において、仕組みづくりの過程から取り組み開始後に至るまで、地域住民の学び合いと参加・参画の場は多様である。
- ②：それぞれの学び合いと参加・参画の場では、ドライバーやオペレーターだけでなく、役割の異なる様々な「担い手」が存在し、お互いに生活交通を支えている。また、地域住民の役割は、周辺（応援者）から中心（ドライバー）へと変化する可能性がある。
- ③：生活交通の確保の取り組みは、単なる交通サービスづくりから支え合いの地域づくりへと発展する可能性がある。

